

シンポジウム3 がんとともに生きる一患者を支えるために、薬剤師ができることー

保険薬局から、地域のがん患者を支える取り組み

そうごう薬局 天神中央店
下川友香理

当薬局では、2011年11月より主応需先との連携をすすめ、がん薬物療法施行患者への支援内容をお互いに把握し、指導内容の統一化を行っている。保険薬局においてもレジメンに応じた副作用確認・予防対策への支援が可能になっている。

また、一人の患者に対し、一人の専門的知識をもった薬剤師が担当するという疾患別薬剤師担当制を2012年2月より導入し、患者の経時的な変化を把握しながら、ファーマシューティカルケアを行っている。

2016年4月の診療報酬改正により「かかりつけ薬剤師制度」が始まった。今までも担当してきた患者に同意を求めるとほとんどの方が同意された。一人の薬剤師が担当するという価値を患者が実感してくれているためだと思われる。

また、がん患者の不安・悩みを解消する場として、がん患者とじっくりと話す時間を設けるために、2013年3月より毎月1回「がん対話カフェ」を開催している。がん患者と薬剤師が自由に会話することで、がん患者は様々な思い・不安を語られる。保険薬局薬剤師は、がん患者がもつ全人的痛みについて、どの痛みに関しても相談をうけることができ、解決の道しるべを示すことができる立場にいると思われる。

かかりつけ薬剤師に同意した患者へのアンケートとがん対話カフェに参加される方との会話から、がん患者が薬剤師に求めることがわかってきた。がん患者の中にある不安・悩みが治療の妨げになることもあった。患者に寄り添ったファーマシューティカルケアについて考察したので報告する。